

様式 F-7-2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究代表者	部局	社会情報学部		
	職	教授		
	氏名	正村 俊之		

1. 研究種目名 基盤研究(C) (一般) 2. 課題番号 15K03820

3. 研究課題名 ガバナンスのリスク社会論・監査社会論的研究 資本主義と民主主義の現代の変容

4. 補助事業期間 平成27年度～平成30年度

5. 研究実績の概要

現代社会では、1980年代を境に「ガバメントからガバナンスへ」「産業社会からリスク社会へ」と呼ばれる変化が生じた。統治の構造は、国家による垂直的統治（ガバメント）から、国家・企業・NPO等、多様な主体による水平的統治（ガバナンス）へと移行した。また、社会の構成原理は、19世紀の産業社会に支配的であった「富の分配原理」に対して、「リスクの分配原理」という新たな原理が台頭してきた。本研究の目的は、情報化とグローバル化に伴って生じたこの社会的変容を近代社会の機能分化の変容として捉えることにあった。

本研究をつうじて明らかになった主要な論点は以下のとおり。

第1に、これまでガバナンスは統治の問題、リスクは危機管理の問題として位置づけられてきたが、ガバナンスの仕組みが社会の全般的な領域に及ぶとともに、リスク管理も多次元化・複合化されたことによって、リスク管理は社会の統治原理になりつつある。現代社会において、リスクはあらゆる社会的・日常的な活動に内在し、リスク対策を講ずることは統治の重要な課題となっている。

第2に、現代社会は機能分化を維持しているとはいえ、上述の政治的・経済的な変化は機能分化の変容をもたらしている。近代社会は、政治・経済・法・宗教といった社会的機能が明確に分化した社会であり、機能分化は、それまで融合していた諸機能がそれぞれ特定の形式のもとに集中することによって相互に分化した。「近代民主主義」「近代資本主義」はそれぞれ機能分化した「政治システム」「経済システム」を指しているが、現代社会では、機能分化をもたらした機能的集中とは逆の機能的拡散が進行している。

そして第3に、これまでリスク管理は各機能システムに特有な観点からなされてきたが、リスクの多次元化・複合化と社会の機能的拡散が進むなかで、リスク管理も各機能システムに特有な処理に委ねるだけではすまなくなっている。

6. キーワード

コーポレート・ガバナンス リスク・ガバナンス 監査 近代民主主義 権力 近代資本主義 貨幣 情報化

7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小松 丈晃	4. 巻 40号
2. 論文標題 社会システム理論による「社会」概念と機能分化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会学史研究	6. 最初と最後の頁 33 - 52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

2 版

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 加藤 眞義
2. 発表標題 原発事故の「生活再建」の課題 災後8年の「福島」の事例から
3. 学会等名 社会理論研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 正村 俊之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 224
3. 書名 主権の二千年史	

1. 著者名 正村 俊之（金子勇編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 変動のマクロ社会学 ゼーション理論の到達点	

1. 著者名 加藤 眞義・吉野 英岐（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 300
3. 書名 震災復興と展望 持続可能な地域社会をめざして	

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

9 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 0 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 1 . 備考

-